

RAYBRIG NSX CONCEPT-GT 初戦を2位で飾る

| | |
|---------|---|
| RACE | 2015 AUTOBACS SUPER GT Round1 『OKAYAMA GT 300km RACE』 |
| DATE | 予選：2015年4月4日 決勝：2014年4月5日 |
| CIRCUIT | 岡山国際サーキット（岡山県） 3.703km×82LAPS |
| WEATHER | 予選：曇/ドライ 決勝：曇・雨/ウェット |
| RESULT | 予選：9位 決勝：2位 |

2015年SUPER GTシリーズ開幕戦「OKAYAMA GT300km RACE」が、4月4、5日に岡山県・岡山国際サーキットにて行われた。レースウィーク中、不安定な天候に左右されつつも、TEAM KUNIMITSUのNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは粘り強く戦いに挑み、予選9位からポジションアップを続けて2位表彰台獲得という躍進を遂げた。



オフシーズンの間、チームでは国内外のサーキットでテストを重ね、2015年シリーズ戦でのさらなる活躍を目標として、各自仕事に取り組んできた。一方でチームドライバーには山本尚貴、伊沢拓也のふたりを招へい。2010年から3シーズンをと共に戦ったコンビがチームに戻り、さらに活気が出てきた。今年は序盤からしっかりと結果を残し、つねにチャンピオン争いに関わっていきたいところだ。

春休み最後の週末を迎えた岡山。終日天気の方角を気かけながら、セッションを進めることになった。まず土曜日の朝、公式練習は薄曇りの下で走行開始。前夜に降った雨の影響でまずはレインタイヤを装着する。気温も高く、ほどなくして走行ラインが乾きはじめると、スリックタイヤへとスイッチするチームが続出。チームもご多分にもれず両タイヤでの走行データを収集、午後からのノックアウト予選に向けて作業を続けた。なお、No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTのチームベストは、伊沢がマークした1分20秒418。6番手でセッションを終えている。

◎ 予選：

午後からの予選に向け、天気は好転。明るい日差しはほとんどなかったが、路面は完全にドライへと変わり、気温、路面温度ともに上昇した。今シーズンのSUPER GTでは、サポートイベントとしてFIA-F4選手権が新たに組み込まれることを受けてタイムスケジュールに多少の変更が見られることになり、GT500の予選1回目は午後3時10分からのスタートに。例年よりも遅い時間帯になったが、ノックアウト方式というシステムはこれまで通り。GT500車両の全15台でQ1を走り、うち上位8台がQ2へ進出することができる。

チームでは15分間のQ1に伊沢を抜擢。昨シーズンは海外レース参戦のため、国内戦フル参戦は2年ぶりになるが、気も新たにコースへと向う。気温23度、路面温度28度のなか、伊沢が刻んだアタックラップは1分19秒986。その瞬間、5番手につけ、Q1突破を達成したかに思われたのだが…。この直後からタイムアップするライバルが続き、セッション終了時には9番手に留まった。なお、Q2進出可能な8位のタイムとは僅差。惜しい予選結果となった。

Q1に挑んだ伊沢。「朝の走り始めから、レクサス、日産といったライバル勢よりも相対的にタイムが足りていない状況ではありました。ただ、テストから比べると、その差が明らかに縮まっていることも確認できたし、タイムを見る限りは（Q1進出の）8番手にも手が届く可能性はあると感じました。それだけに自力でなんとかしたい、という思いは正直ありました」と悔しさがにじみ出る。「とにかく明日はミスなく走らなければならぬと始まらない。岡山は相性がいいので、できれば表彰台を狙いたい」と気持ちを入れ替えることで、モチベーションを高めていた。

一方、予選出走の機会には恵まれなかった山本。「朝の走行では、コンディションの変化に合わせてクルマのセットアップを進めたり、予選アタックをどちらが担当するか、走りながら色々なことをやっています。結果的にホンダ勢としてちょっと奮わない予選でしたが、その中でトップは狙いたかった」と残念がった。しかしながら、「ただ伊沢選手とは互いに知っている仲なので、コミュニケーションの問題はない。今回のレースはもちろん、2戦、3戦目に繋がるレースをまずはチームスタッフと一緒にやっていきたいという思いです」と、目標をあげた。



◎ 決勝 :

迎えた決勝日の朝。予選日の夜から本格的な雨が降り、路面は再びウェットへと逆戻りしていた。午前9時からのフリー走行は雨こそ降っていなかったが、気温17度、路面温度も17度の中、全車レインタイヤを装着しての出走となる。

天気予報では一時的に雨が降るとのこと。しかし、どのタイミングでどのくらいの雨になるかは当然ながら誰にもわからない。ただ、不確定要素の多い300kmの戦いになることだけは想像がついた。このセッションでNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTのベストタイムは伊沢がマークした1分36秒623。コンディションが回復する中で6番手となり、決勝でのポジションアップに期待がかかったのは言うまでもない。

このあとも薄曇りの天気が続き、多くの観客で賑わったピットウォークも無事終了。ただ、前日ほど気温が上がらず、路面もまだ完全に乾き切っていない。決勝直前のダミーグリッドに集結した各車両の足下にはレインタイヤが装着されている。時間ギリギリまでタイヤ選択に迷うチームも多く、“運を天に任せる”という難しい状況の中、No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTがチョイスしたのは、ハード系レインタイヤだった。

気温18度、路面温度20度の中、300kmレースがスタート。先にステアリングを握ったのは山本尚貴だ。「履くならこのタイヤしかないと思っていた」という山本は、混乱模様のオープニングラップの1コーナーをクリアに消化すると、難しいコンディションをものともせず7位まで浮上。その後もチャンスを確実につかんで着実にポジションアップを果たしていく。ソフト系レインタイヤを選択したライバルも多くいたが、20周を終える頃には4番手を走行。タイヤマネージメントにも腐心しながら状況に応じた走りを心がけ、25周目には前を行くNo.37 KeePer TOM'S RC Fをダブルヘアピンで逆転。トップのNo.15 ドラゴ モデューロ NSX CONCEPT-GTにも迫る勢いで走行し、ついに34周終了時には暫定トップの座へと上り詰める。



迎えたルーティンワーク。チームは36周を終えた時点で山本をピットインさせて伊沢へとスイッチ、またもハード系レインタイヤを装着してコースへと送り込んだ。ライバル勢のルーティンが終わり、足並みが揃う頃には再びトップ争いへ加わったNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT。37号車と攻防戦を繰り返した末にマイクナイトコーナーで逆転！ トップを奪還する。快走を続ける伊沢と後続車との差はみるみる広がり、およそ9秒ものマージンを築くことに成功。あとはひたすらチェッカーフラッグを目指すだけだったか…。

レースは終盤に入り、にわかには天候が激変。一度は完全に上がったと思われた雨が再びサーキットに舞い戻ってくる。すでに多くの周回を重ね、また路面温度が低下する中でハード系レインタイヤのパフォーマンスに多くの期待をかけることは難しく、伊沢は後続の37号車と前とは違う立場でのバトルを強いられた。結果、テール・トゥ・ノーズでなんとか封じ込めようと尽力するも、わずかに挙動が乱れた際に逆転を許すこととなり、71周目には2位へ。トップとの差は開いたが、それでも後方からの追撃はすべて封じ込めることに成功。2位でフィニッシュラインをくぐり、タフな戦いに幕を引いている。

今回の2位入賞により、No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは2013年第3戦セパン以来となる表彰台を獲得。これまで優勝経験もあるこの岡山で幸先のよいシーズンスタートを切ることになった。



◎高橋国光総監督

残り12-3周あたりになって、「ひょっとして勝てるかな」と思ったんです。そうしたら雨が降り出して…。“勝つと思うな（思えば負けよ）…”ですね（苦笑）。結局は酷くなった雨の影響で、（異なるレインタイヤを装着した）後続車に追い付かれてしまいました。しかし、それよりもまず山本が最初がいい走りを見せてくれたし、引き継いだ伊沢も難しいコンディションの中、ミスなくしっかり戦ってくれるという、大変すばらしいレース内容になったことが、このうえない喜びになっています。大きく成長したふたりには、もう僕の方から何のアドバイスをする必要もないですね。ドライバーとしての在り方がきちんと表れていました。与えられた環境の中で仕事ができていましたね。2位にはなりましたが、文句のつけようがないレースでした。今

後もふたり揃って切磋琢磨して、いい戦いをしてもらいたいですね。

◎山本尚貴選手

スタートぎりぎりまでどのタイヤを履くのかは聞いてなかったんですが、履くならこのタイヤ（ハード系ウェットタイヤ）しかないと思っていました。準備もちゃんとできていましたし。スタート直後は混乱するだろうし、コンディション次第の部分もありましたが、できるだけ引っ張ることができるタイヤをチョイスしつつ、周りのペースも（無線で）聞いていました。（攻防戦となった）15号車（ドラゴモデュール NSX CONCEPT-GT）のペースに合わせて走っていたらタイヤが壊れるだろうと思い、先行を許したのですが、結果的には向こうも一気に（ラップタイムが）ドロップしたし…。そこまでは作戦どおりでした。僕の状況を無線で聞いていた伊沢選手も後半タイヤをコントロールしていたし、途中までは優勝できると思っていました。でも最後の雨でだいぶ苦しくなっちゃい…。でも予選の順番を考えても決勝でちゃんと表彰台に上がったし、この表彰台が少し冬の間がんばってくれたホンダのみなさんへお礼になれば、とも思います。2戦目以降はさらに弾みをつけてがんばりたいですね。



◎伊沢拓也選手



昨日、Honda勢として悔しい（予選）結果になってしまったので、コンディションがこうなった（不安定な天候になった）以上、なんとか上に行きたいという思いでレースをスタートしました。前半、山本選手がトップまで上がったわけですが、僕らのセットにコンディションがよく合っていました。ピットインでもスタート時と同じハード系のウェットタイヤを着け、トップの37号車（KeePer TOM'S RC F）をしっかりとオーバーテイクして、ギャップも開いて…とそこまでは完璧なレースでした。ですが最後に何のいたずらなんだろう…（苦笑）。急にちょっとだけ雨が降ってきて、正直なところコース上に留まるだけで精いっぱい状態でした。なんとか2位を守れて良かったと思うんですが、自分たちが選択したタイヤでトップに立てた反面、最後は

（雨の影響で）10周くらいキツイ思いもしたということ考えると複雑です。でも、相対的に考えればよしとしましょう。今回のレースでは僕らは決してラクな戦いじゃなかったもので、富士では2ステップくらい上げて挑みたいと思います。

第2戦は5月2～3日に静岡県・富士スピードウェイにて開催されます。

引き続き、皆様のご支援・ご声援をお願いいたします。